

第1回 夕張市総合計画等策定委員会 議事概要

日時：令和8年7月6日（月）18:00～20:00

場所：夕張市複合拠点施設りすた 多目的ホール

■出席者

出欠	選出枠	氏名	備考
(委員)			
○	夕張市社会福祉協議会 事務局長	天野 隆明	
○	夕張市医師会 会長	中條 俊博	
○	夕張保育協会 事務局長	藤原 優介	委員長
○	夕張市農業協同組合 専務理事	武岡 宏樹	
○	夕張商工会議所 相談所長	坪田 聡	
×	一般社団法人夕張市観光プロモーション 会長	若狭 翁斉	
○	夕張鉄道株式会社 常務取締役	大島 恵司	
○	夕張市社会教育委員会 社会教育委員長	小網 敏男	
○	北海道夕張高等学校 校長	熊谷 孝宏	
○	夕張市校長会 会長	山中 晴吾	
○	夕張市PTA連合会 会長	渡邊 芳賢	
○	特定非営利活動法人夕張市体育協会 理事長	角田 浩晃	
○	ゆうばり再生市民会議 代表	澤井 俊和	副委員長
○	千歳公共職業安定所夕張出張所 出張所長	飛田 高弘	
○	株式会社北洋銀行夕張支店 支店長	田矢 良平	
(夕張市)			
○	厚谷 司 市長		
○	芝木 誠二 副市長		
(事務局)			
○	夕張市 板垣 克巳 総務企画課長		
○	夕張市 吉田 直人 企画係長		
○	株式会社ドーコン 岡本 真和		
○	株式会社ドーコン 生沼 貴史		
○	株式会社ドーコン 立花 大地		
○	株式会社ドーコン 長谷 奎弥		

■資料

- ・式次第
- ・委員名簿
- ・説明資料
- ・策定委員会設置要綱

■議事

開会

- ・事務局 板垣課長開会挨拶

1. 市長挨拶

- ・令和8年度に再生振替特例債の償還完了を迎えることを契機として、今後10年間のまちづくりの方向性を示す総合計画策定に向けて多様な知見をいただきたい。
- ・まちづくりの3つの柱として「コンパクトシティの推進」「地域資源を活かした地域活性化」「持続可能な地域経営」を掲げていきたい。

2. 委員・事務局紹介

- ・板垣課長より、副市長・事務局メンバーが紹介された。
- ・各委員より、それぞれご挨拶いただいた。

3. 委員長選任、副委員長選任

事務局 板垣課長

- ・委員長について立候補、推薦される方はいるか。

田矢委員

- ・藤原委員を推薦したい。

事務局 板垣課長

- ・藤原委員を委員長とすることでいかがか。

一同

- ・異議なし。

事務局 板垣課長

- ・それでは、藤原委員に本委員会の委員長をお願いする。
- ・副委員長は委員の中から委員長が指名することとなっている。藤原委員長のご意見を伺いたい。

藤原委員長

- ・澤井委員に副委員長をお願いしたい。

事務局 板垣課長

- ・皆様よろしいか。

一同

- ・異議なし。

事務局 板垣課長

- ・今後の進行は藤原委員長をお願いする。

藤原委員長

- ・委員の皆様のご協力をいただいて円滑に議論を進めてまいりたい。

4. 議事

(1) 夕張市総合計画等について

事務局 吉田係長

- ・資料「夕張市総合計画等策定委員会説明資料」を用いて説明を行った。
- ・委員の皆様よりご意見をいただきたい。

(2) 意見交換について

事務局 吉田係長

- ・理念、まちの将来像、まちづくりの柱についてご意見をいただきたい。

藤原委員長

- ・各委員の所属に関連したご意見をいただきたい。

田矢委員

- ・理念について、夕張らしさ＝自然・歴史・文化について市民の皆様が理解できるか不安である。
- ・失ったものを取り戻すという意味でも、理念に「挑戦」「誇り」といった前向きな言葉を入れることも必要なのではないか。
- ・将来像について、「小さくても」という言葉はいらないのではないか。理念同様に前向きな言葉やメッセージ性の強い言葉が入ると良い。
- ・「コンパクトシティの推進（まちづくりの柱）」について、コンパクトシティを打ち出してからかなりの期間が経過していることから、スマートグロースシティなど、コンパクトシティに代わるようなメッセージを取り入れてもよいのではないか。
- ・「持続可能な地域経営（まちづくりの柱）」について、市民への寄り添いやともに作り上げるといった内容を含めてもよいのではないか。

角田委員

- ・昨日開催されたメロンランなど、地域のスポーツイベントが開催されることで人が入ってくると感じている。一方で、夕張市では過去、観光で失敗していることから、人を呼ぶことに対して臆病になった 20 年に見えた。
- ・市内のスポーツ施設は 20 年が経過しても立派に建っており、これらの施設は宝である。
- ・今後は宿泊施設にも働きかけていけるような、夕張市民以外の方の力も必要になってくるのではないかな。

渡邊委員

- ・夕張市の人口減少や生活サービスの低下は顕著であるが、個人的には夕張のことが好きなので離れたくないと感じている。
- ・アンケートの 25%という回収率に対する評価および回答者の年齢層について教えてほしい。
- ・「持続可能な地域経営（まちづくりの柱）」には雇用の確保が必要であり、そのためには交通の確保が重要である。
- ・まちの将来像にある「小さくても」という言葉を入れずに、夕張の強みに係る言葉を入れてもよいのではないかな。

山中委員

- ・全校生徒 100 人規模の学校は校長として児童・教職員にとっても適切な人数であると感じる。今後も規模を維持したい。そのためには子育てへの手厚い支援が必要である。

小網委員

- ・社会教育として、市民が主役となる体験型の生涯学習が重要と考える。
- ・文化の振興・継承に向けて、社会教育施設の有効活用が必要である。
- ・市外の方へ、夕張の人々が頑張っているところを見せたい。

熊谷委員

- ・あるシンクタンクによると、高校のある自治体の方が人口減少はなだらかであることから、生徒を集めるための高校魅力化が重要である。
- ・「持続可能な地域経営（まちづくりの柱）」にこのプロジェクトが含まれており、地域みらい留学など、市のバックアップを得ながら取組を実施している。現在は埼玉から 1 名、神奈川から 2 名、東京から 1 名の生徒が来ている。

大島委員

- ・公共交通の維持は重要であるが、実際は利用者がいないことが現状である。その一方で、乗務員の確保も課題となっている。
- ・今後、利用者の増加は難しいが、博物館などへ向かう観光客の利用は確実にあることから、そのような層が増えるような宣伝があるとよい。
- ・博物館を訪れる観光客に対する情報発信を強化してはどうか。

天野委員

- ・地域における課題の一つとして、高齢者による一人暮らしの増加が挙げられる。
- ・安心して暮らせるまちづくりとは具体的にどのような取り組みがあるのかといった不安の声も聞いていることから、今後どのように整理して進めていくか見てみたい。

中條委員

- ・医療・介護は人手不足である。市民も通院する手段がなくいつまで維持できるかが不安。
- ・財政再建団体になってから、コミュニティ、交通、買い物、イベントなど、色々なものがなくなった。
- ・「コンパクトシティの推進（まちづくりの柱）」とあるが、南清水沢地区以外の地域との関係を含めて検討が必要ではないか。
- ・拠点としている清水沢地区もどんどん人口減少が進んでいる状況。市民全員が幸せになるのは難しいかもしれないが、市の考え方に協力していきたい。

武岡委員

- ・少子高齢化が進む中で、若者の市外流出が問題になっている。原因の一つとして、職種が限定されてしまっており、市内に残って働くことは難しいことが考えられるのではないか。
- ・アンケート回答者の年齢層について伺いたい。

坪田委員

- ・基本方針について、守るだけでも大変である。しかし、最低限のインフラは維持していかなければならない。
- ・夕張の魅力を発信し、豊かな社会を目指したい。
- ・豊かな社会はそれぞれのまちが輝くことで成り立つと考えている。夕張の魅力を発信し、市が発展することが北海道の発展にも寄与するのではないか。

飛田委員

- ・市民向けアンケート結果をみると雇用の確保を重視する割合が高くなっている。
- ・現状の夕張市における有効求人倍率は1.3倍となっているが、大企業と中小企業とで偏りがあると考えている。
- ・令和7年度は夕張市内で倒産が相次いだ。市内には雇用がないのではないかとといったマイナスなイメージが見受けられることから、市主体で雇用の活性化に取り組むことが重要である。
- ・他自治体では、雇用の確保に向けて事業者向けセミナーや起業向けセミナーなどを実施している。

澤井副委員長

- ・夕張の魅力について、コンビニエンスストアにクワガタが集まる光景など、夕張市民にとって当たり前にあるものが魅力なのではないかと感じた。今後も気づいていない魅力について発信していきたい。
- ・財政再生を進めていく中で生じたハードルの乗り越え方と外し方について検討していく必要がある。少子高齢化などの乗り越えられないハードルはそれ自体を魅力に繋げられないか。
- ・人工知能や自動運転などの新技術を導入することで、未来の日本を考えるフィールドとして活用されるのではないか。
- ・基本方針はよくまとまっている。これから市民とともに作るまちづくりとして肉付けしていきたい。

藤原委員長

- ・基本方針をどのように実現していくかが課題である。市民の意見を取り入れるという意見をいただいた。今後基本計画を策定する中で委員からより多くの意見をいただきたい。
- ・理念やまちの将来像については、市民とともに進んでいくようなメッセージを掲げてはどうかという意見が出たが、事務局としてはどうか。

事務局（吉田係長）

- ・理念は考え方、まちの将来像は具体的なイメージとして整理していることから、これらの線引きをした上で、いただいた意見の反映方法について検討していきたい。

藤原委員長

- ・アンケートの回収率と回答者の年齢層について委員から質問があったがどうか。

事務局（吉田係長）

- ・回答数は 261 件であり、分析する上では十分な数である。
- ・年齢層については 10 歳毎に整理しているが、20 歳代～70 歳代の回答率はそれぞれ全体の 13～18%程度となっており、幅広い年代から満遍なく回答をいただいたものと把握している。

田矢委員

- ・これからどうするかを理念として掲げていくべきである。市民の誇りとなる計画をつくっていききたい。
- ・今あるものの中で、個々ではなく全体を通して何か意見をいただきたい。共通するキーワードをこの委員会の中でつくりたいと考えている。

藤原委員長

- ・まちの将来像についてはどうか。

角田委員

- ・説明いただいたまちの将来像は現実を踏まえたものとなっているが、10 年後を語るにはさみしい内容である。夕張は多くの人が出ていったまちであるが、一定程度時間がたってから夕張へ戻ってきている人もいる。
- ・夕張の魅力の一つとして、津波や地震等の災害リスクが比較的低く、食糧不足にさいなまれることがないことから、安心して住み続けられるまちとして発信していくことが重要である。

澤井副委員長

- ・雇用の機会を増やせば魅力につながるのではないか。小中学生向けの科学実験を企画した際には、市民も市役所も前向きであった。様々な活動を発信することが必要である。
- ・子育て以前に、結婚に対する支援も手厚くしたい。

熊谷委員

- ・キーワードは人間関係ではないか。夕張高校は芝浦工業大学や柏中学高等学校と協定を結んでいるほか、北海道大学の瀬戸口研究室とも連携している。
- ・人間関係の良さは夕張の大きな魅力であり、その魅力が理念や将来像に反映されているとよい。

田矢委員

- ・ウェルビーイングについて、資料からは夕張市民一人ひとりが頑張らないと幸せを手に入れられないのではないかと感じた。本来は一人一人が努力や我慢をしながら一つの幸せを獲得していくといった考えなのではないか。

小網委員

- ・夕張には魅力的な地域資源が多いと感じている。ダムをはじめとした地域資源を発信していきたい。
- ・夕張市の破綻は世界的に見ても事例がなく、20 年の経過を踏まえてマイナスの面をプラスに変えるチャンスである。
- ・夕張のまちを否定するのではなく、既存資源をもう一度ソフト・ハードの面から見直す必要がある。

武岡委員

- ・夕張市は財政破綻やメロンで有名になっており、夕張メロンは今年も 580 万の高値が付いた。夕張は様々なところで認知されているので、そこをうまく活用していきたい。

藤原委員長

- ・理念について、アンケート結果より「自然」に関するポジティブな意見がみられた一方で、「歴史」「文化」の継承について市民は具体的に感じ取れないのではないかと感じた。
- ・まちの将来像についても、具体的に市民の皆が寄り添って暮らしていけるかというところについて疑問である。
- ・市民の方々にも理解いただけるような理念・将来像を掲げていくことが重要なのではないか。
- ・事務局の意見を伺いたい。

事務局（板垣課長）

- ・委員の皆様いただいた意見を踏まえ、次回の基本計画の策定と同時並行で理念・まちの将来像の検討を進めてまいりたい。

藤原委員長

- ・次回委員会までの保留事項としてよいか。

一同

- ・異議なし。

事務局（吉田係長）

- ・まちづくりの柱についてはどうか。

田矢委員

- ・「コンパクトシティ」については、その言葉自体を変えてもよいのではないか。

角田委員

- ・「コンパクトシティ」の位置づけについて、単なる機能集約ではなく、機能的に充足した地域にすることが重要であるため、利便性の向上によってその地域に市民が集まるという考え方がわかるような表現にしていきたい。

藤原委員長

- ・事務局としてはどうか。

芝木副市長

- ・便利な地域を作り、そこに人が集まっていくというイメージは共感できる。一方で、夕張市全域にわたるインフラの維持が今後の課題である。
- ・まちづくりの方向としてインフラ維持に係る課題を掲載することは前向きな表現とは言いにくいため、再度検討させていただきたい。

藤原委員長

- ・他に意見はないか。

田矢委員

- ・市と市民との間に隔たりがあるのではないか。「持続可能な地域経営（まちづくりの柱）」の中で「まちを未来へつなぐ仕組みづくり」とあるが、行政向きすぎるのではないか。市民の皆様にも伝わりやすいキーワードにしてもよいのではないか。

藤原委員長

- ・田矢委員の発言に対して、事務局としてどうか。

事務局（吉田係長）

- ・今後の保留事項として、理念・まちの将来像と併せて検討させていただきたい。

藤原委員長

- ・引き続き、事務局で検討を進めるという方針でよろしいか。

一同

- ・異議なし。

藤原委員長

- ・事務局には保留事項の確認と回答および基本計画以降の検討を進めていただきたい。
- ・本日の議事を通して質問はないか。

一同

- ・なし。

閉会

- ・事務局 板垣課長閉会挨拶
- ・次回の策定委員会は9月下旬から10月上旬を予定している。

以 上